

【第2会場：4S07教室（6）】

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

Nagkaisa とは、「ひとつになる」という意味です。

すみません！
たすけてください！！



『バヤニハン日本語教室』の「119 通報練習」より
(左から日本人ボランティア・学習者・バイリンガル指導者)

1994年、日本人配偶者と結婚したフィリピン人女性たちが、ふるさとの仲間とともに日本語、日本文化、習慣、ルール、マナー等を学ぶために結成しました。近年は来日背景、滞在環境の変化から男性や子どもたちも多く在籍しています。また、2012年にはNPO法人になり、活動を支える日本人の参加も増えました。



フィリピン児童対象の『ハロハロ教室（浜松市委託）』では保護者会を大切にしています。



『青年のための日本語教室』（平成26年度自主事業）学齢期を超える青年層の来日が微増傾向にあります。



子どもたちの未来を支える
進路ガイドブック



『外国人児童生徒進路相談事業（静岡県委託）』では「進路ガイドブック」を、作成しました。
<http://filipinonagkaisa.org/future-guide/>よりダウンロード可能。



各種国際交流事業の企画・参加



フィリピン大使館出張領事サービス（公益財団法人浜松国際交流協会共催）



特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

ホームページ <http://filipinonagkaisa.org/>

メール filipinonagkaisa@yahoo.co.jp

080-4308-8380（タガログ語）

080-3671-8380（日本語）

事業実施概要

事業名称	バヤニハン日本語教室 ～みんなで地域をつくっていこう～
地域の課題	リーマンショック後も静岡県西部地区のフィリピン人は増加しているが、日本の言語、習慣、ルール等がわからず日本社会との接点が希薄な人がある。また、「自信がない」という理由から日本人とコミュニケーションをとることができないという人もいる。
事業の目的	<p>① 自立支援</p> <p>② 地域との連携…日本人ボランティアの参加呼びかけ／行政、企業等へ講師派遣を依頼し、交流を深める。（理解者の裾野を広げる）</p> <p>③ 教室運営能力を高める…バイリンガル指導者による特色ある日本語教室を運営する。</p>
事業の概要	日本語教室の実施
	<p>名称：バヤニハン日本語教室 ～みんなで地域をつくっていこう～</p> <p>目的：フィリピン人と日本人の相互理解を深め、在住フィリピン人の自立を促進する。</p> <p>対象：日本語レベル入門・初級の「生活者としての」フィリピン人</p> <p>人数：91 人（主な出身・国籍：フィリピン）／時間：60 時間（全 26 回）</p> <p>内容：行政や企業、ボランティアの協力を得て、日本語と生活情報を組み合わせて教授する。</p>
	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	<p>名称：バヤニハン日本語教室 ～みんなで地域をつくっていこう～ 人材育成</p> <p>目的：「協働」の視点から、地域の課題にあった日本語教室が運営できる人材を育成する。</p> <p>対象：①バイリンガル指導者とそれを目指す者 ②日本人住民</p> <p>時間：30 時間（全 11 回）／人数：35 人（出身・国籍：フィリピン、日本、中国、ブラジル）</p> <p>内容：国、地方行政の動向を積極的に取り入れる。バイリンガル指導者はじめ、在住外国人の自立支援のために活動している日本人と情報・意見交換を行う。</p>
日本語教育のための学習教材の作成	
<p>名称：バヤニハン日本語教室 2013～みんなで地域をつくっていこう～</p> <p>目的：生活に必要な日本語を厳選、日本語学習の入口としての機能を持った教材を作成する。</p> <p>対象：静岡県西部地区に暮らす日本語レベル入門、初級の「生活者としての」フィリピン人</p> <p>構成：本事業の日本語教室で取り扱うテーマに沿って、学習教材を作成した。</p>	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当クラスの学習者は日本語力が乏しく、得られる生活情報が少ない傾向にある。そこで 25 年度は「税金」に関するテーマを扱ったところ、学習者たちは「何の為に税を払うのか」という疑問が解け、税に対する知識が習得でき、結果、正しく納税をするに至った。 ・日常生活では「職場には通訳がおり言葉に対する不便さを感じていない」という反面、「母語が通じない教室へ通うことへの不安」が挙げられる。滞在が長期・高齢化すれば、生活範囲が狭く情報が閉ざされてしまうため、今後も日本語教室への参加を促し、学習者からの要望、アンケート結果を分析検討し、定住化する学習者が必要とする課題を取り入れていく。
発表者から一言	<p>「バヤニハン」はタガログ語であり、「たすけあい」という意味です。この教室には『みんなで地域をつくっていこう』というサブタイトルが付けられています。この教室に関心を抱いてくれる方が増えることが、学習者の日本語能力向上と共生社会実現につながります。今日は全国の皆様にお話を聞いていただける機会をいただき、心よりお礼申し上げます。</p>